

令和4年度

丹波市立中央小学校 学校経営方針



令和4年4月



教育目標

人とのつながりを活かし、自ら可能性を広げる児童の育成 ～ 自律 × 創造 × つながり力 ～

- ◆自律する子 自分で考え、判断・自己決定し、行動できる子
- ◆創造する子 自分なりの考えをもとに、新しい考えを創り出す子
- ◆つながれる子 互いの良さを認め合い、関わりの中で学べる子

めざす児童の姿



非認知スキル育成

- あたたかい心・やさしい行動
- 学び合う楽しさの実感
- 自信・自己有用感
⇒存在感・夢「やればできる」
- 失敗しても折れない心
⇒失敗を活かした遂行
- 新たなチャレンジ
⇒感情と思考のコントロール

認知スキル育成

- 自分や学びの形成
自ら思考・判断・行動・振り返り
- 役割の自覚と遂行
自分のため・人のため
- 自己の課題を発見し、分析し、行動する力
- 他者の考えを受け止め、自分に役立てる力
- 新しい力の育成
外国語活動・プログラミング



【めざす学校像】

- 子どもを信じ、決して見捨てない学校
- 働き合い、対話し、学び合いのある学校
- 「自信」「考える力」を育てる学校
- 家庭・地域から信頼される学校

【めざす教師像】

- 子どもに寄り添い切れる教師
- 子どもに確かな力をつけるために、指導力を高め、協働できる教師
- 家庭や地域の声に耳を傾け、連携して教育課題の改善に努める教師

めざす学校と教師の姿

1 子どもに寄り添い、決して見捨てない学校 ～授業・学習・学校が楽しい～

(1) 「学校が楽しい、授業が楽しい、学習が楽しい」と言える児童の増加

学校は、子どもたちの未来を創るところです。そのためには、どの子どもも安心して学べる学校・学級であることが大前提です。私たちは、特別支援教育、人権同和教育を基盤とし、すべての子どもが、行きたくなる学校、ずっといたい学級、もっと受けたい授業を創っていきます。

- ◆ 振り返りの時間の確保による「わかる」「できる」の実感
- ◆ 休み時間の外遊びの奨励
- ◆ 日々の教師の姿・まなざしの意識化

日々の教師の姿・まなざし

- 「目をつなぎましょう」を意識して、できている子を褒めましょう。
- 非言語も見とり、「以前のその子と比べて」言葉がけをしましょう。
- 「楽しいなあ」と声に出し、笑顔と笑いを大切にしましょう。
- 些細な素振り、言動を感じ取れる敏感さを磨きましょう。

(2) 不登校ゼロ、いじめゼロ

不登校自体が問題なのではありません。不登校ゼロに取り組まない組織であれば問題です。この視点に立ち、不登校の未然防止、早期発見、早期対応に取り組めます。また、いじめは、どの子どもにも、どの学級にも、そしてどんな時にでも起こりうるという認識に立ち、いじめの早期発見、早期対応はもちろんのこと、日常の学校生活の中での仲間づくりを大切に、いじめが起らない人間関係づくりに取り組めます。

- ◆ 自他の違いを認め合う学級経営
- ◆ 連続3日欠席したら必ず家庭訪問
- ◆ 児童理解シートを活用した情報交換



【指標】「自分には良いところがある」と回答した児童の割合：80%以上
全員登校の日数：年20日以上

2 家庭や地域と連携し、信頼される学校 ～支え合い・助け合い・つながり合い～

(1) コミュニティ・スクールの活用

どのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有し、行動を共にすることが大切です。コミュニティ・スクールを活用し、保護者、地域からの意見を学校教育に活かし、積極的に地域人材の活用を進めます。

- ◆学校運営協議会の開催
- ◆学習支援部・生活支援部・地域交流部の3部会の活動
- ◆地域ボランティアの拡大



(2) ホームページ、地域施設を活用した積極的な情報発信

めざすべき教育の姿や学校が抱える課題については、家庭、地域とともに考えることが必要です。そのため、情報を積極的に発信します。

- ◆メールとホームページを中心にした情報発信
- ◆校長室通信をほぼ日々配信
- ◆ひかみ成松交流館で作品掲示



【指標】「学校の様子がよくわかる」と回答した保護者の割合：90%以上

3 指導力を高め、協働できる学校 ～仕事・職員室・学校が楽しい～

(1) 「協働」「創造」「喜び」を大切にした職員組織

子どもたちに学び合い、支え合いを指導するには、我々教師自身がその姿にならないければなりません。私たちは、共に学び、共に支え合い、そして仕事を楽しむ職員組織を創ります。また、自分の得意なこと、自分らしさを発揮できる職員組織であり続けます。

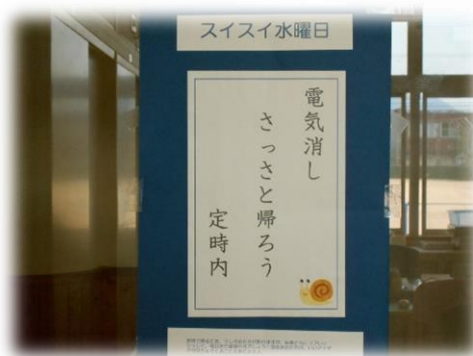
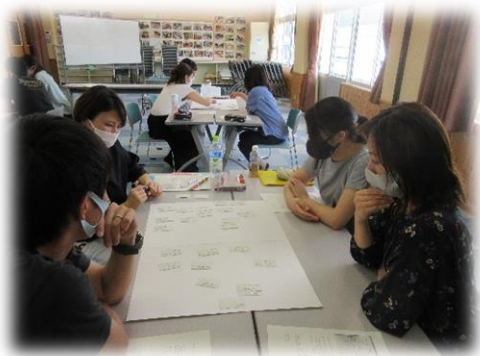


- ◆気づいた時に気づいたことをする姿勢
- ◆自分の悩みやクラスの悩みを職員の悩みにする姿勢
- ◆校内研修において一人一回発言
- ◆全員が研修講師になる“夏季スペシャル研修”の実施
- ◆「伝えたい時が書き時」を合言葉にした研修通信の発行

(2) デジタルを活用した業務改善

子どもたちに向き合うゆとりをつくるために、業務改善がこれまで以上に必要です。そのため、既存のシステムにとらわれない、効果的な時間の使い方について考えていきます。また、積極的にデジタル活用によって業務改善を図ります。

- ◆部会制による会議システム
- ◆タブレット等を活用した情報共有システム
- ◆ガールの有効活用により、会議時間 1 時間以内
- ◆定時退勤日（毎週水曜日）の完全実施
- ◆学期毎にリフレッシュを目的とした半年休を取得



【指標】 研修通信の発行：年 20 号以上

前年度同期と比較した超過勤務時間：10%減

自律する子の育成

～自分で考え 自分で判断 自分で決定 自分で行動～

1 自分で考え、判断し、行動できる力の育成

◆複数学年複数担任制（5年生以上）



複数学年複数担任制で期待する効果

- 自分たちでクラスを創る意識
- 担任まかせにならない当事者意識
 - ⇒個々の自主・自律心の育成
 - 「まずは自分達で考えよう」
 - ⇒自信・自尊心の向上
 - 「自分達でもできる！」

◆3,4年生での一部教科担任授業

◆児童の興味関心から始まるカリキュラム編成

ex) 幼児教育を活かした1年生1学期カリキュラム

1年生1学期カリキュラムの例

今週のテーマ	ちゅうおうしょうがっこう たんけんしょう!
朝の時間	・ 朝の用意
1時間目	【♡なかよしタイム】…集団の中で安心をつくる時間
2時間目	・ 選択活動（読書、プリント、工作、ダンス、お絵描き、遊具遊び、生き物探しなど） ・ 集団活動（手遊び、読み聞かせ、歌、ダンス、右脳ゲームなど）
業間休み	・ 自由遊び
3時間目	【★わくわくタイム】…生活科を中心とした総合的な活動
4時間目	・ 「部屋の数を数えよう」「探検の順番を考えよう」（算数） ・ 「気持ちよく挨拶しよう」「自己紹介カードを作ろう」（国語、図工） ・ 「グループの友だちと力を合わせよう」（道徳）
昼の時間	・ 自治的な当番、係活動（給食、のびのびタイム） ・ 異学年との交流活動（ムキムキタイム、縦割り班掃除、集会など）
5時間目	【♪くぐんタイム】…友だちとの関わりも活用した教科学習



◆自学自習できる力を養う授業構築

ex) 自由進度学習、問いから始まる授業、児童がファシリテートする授業

◆タブレットの有効活用

低学年：タブレットの日常活用

高学年：自分で使い時を判断して活用

◆学び方指導「けつふれ」学習

小サイクル

☐いかく⇒☐ライ⇒☐りかえり⇒☐んしゅう

大サイクル

☐いかく⇒☐スト⇒☐んせき⇒☐んしゅう



2 感情と思考のコントロール

- ◆セルフコントロール指導計画をもとにした右脳刺激のゲーム活動

3 レジリエンス(折れない心)の育成

- ◆体力向上プロジェクト『ムキムキタイム』
- ◆気になる児童への早期対応



【指標】「自分で考えて行動している」と回答した児童の割合：70%以上

「家庭でも一人でできることが増えてきた」と回答した保護者の割合：70%以上

創造する子の育成

～自分なりの考えを創る 新しい知恵を生む～

1 確かな学力の育成

- ◆教科担任制（5年生以上）による授業
- ◆校内研修「自律的に学ぶ姿をめざして」の推進
- ◆月曜日放課後実施の希望者を対象の補充学習『ひょうごがんばりタイム』
- ◆毎月23日「家読（うちどく）の日」に家庭読書を実施

令和4年度の担当教科分担

A教諭	B教諭	C教諭	D教諭	E教諭
国語16h	算数20h	社会12h 体育4h	理科12h 家庭6h	音楽4h 図工6h 外国語8h
総合、道徳、特別活動は、交代で担当				※教頭：書写4h

教科担任制で期待する効果

- 教科特性を活かした授業の提供
- 1学年上、1学年下のメニューの提供
ex.発展メニュー 振り返りメニュー
⇒「みんな同じことを、同じペースで、
同じようなやり方」からの脱却
- 教材研究の時間短縮

2 新しい力の育成

- ◆外国語活動の充実
- ◆『丹波市プログラミング教育基本モデル』
を活用したプログラミング教育の推進



3 課題を発見し、分析し行動する力の育成

- ◆教科担任制（5年生以上）※再掲
- ◆課題解決型学習（PBL）の増加
- ◆生活科・人権総合での学び方の見直し



【指標】「分かることやできることが増えてきた」と回答した児童の割合：90%以上
「新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ」と回答した児童の割合：70%以上

つながれる子の育成

～他者に関心を持ち、人から学ぶ 人の考えを自分に活かす～

1 あたたかい言葉がけ、やさしい行動の日常化

- ◆ 月毎の挨拶目標の設定とPTAと連携した挨拶運動
- ◆ 「ありがとう」と言える機会の増加
- ◆ 特別支援教育の視点を全学級で展開
- ◆ 年間を通じた縦割り班掃除
- ◆ コミュニティ・スクールによる人材活用



2 他者の考えを受け止め、自分に活かせる力の育成

- ◆ 子どもたちが自ら考えて行動する時間『ジャンボタイム』
- ◆ 他者（他学年、地域、海外等）への情報発信
- ◆ 生き方を育む校区事業『かがやきタイム』



【指標】「家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつしている」と回答した児童の割合：90%以上
「相手の気持ちを考えた行動・声かけ・言葉遣いができる」と回答した児童の割合：
低学年 80%以上 高学年 60%以上